

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 高知工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|------|-----------------------------|-----------|-----------------------|-------------|------|----|-------------|------|
| | | | 全学 共通科目 | 学部等 共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| | ソーシャルデザイン工学科 エネルギー・環境コース | 夜・通信 | | 5 | 2 | 7 | 7 | |
| | ソーシャルデザイン工学科 ロボティクスコース | 夜・通信 | | 5 | 4 | 9 | 7 | |
| | ソーシャルデザイン工学科 情報セキュリティコース | 夜・通信 | | 5 | 4 | 9 | 7 | |
| | ソーシャルデザイン工学科 まちづくり・防災コース | 夜・通信 | | 5 | 3 | 8 | 7 | |
| | ソーシャルデザイン工学科 新素材・生命コース | 夜・通信 | | 5 | 3 | 8 | 7 | |
| | ソーシャルデザイン工学専攻 | 夜・通信 | | | 12 | 12 | 7 | |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_1 |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 高知工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------------------|------------------------------|---------------------|
| 常勤 | 熊本大学長 | 2016年4月 1日～2024 年3月31日 | 理事長 |
| 常勤 | 豊橋技術科学大学理事・ 副学長 | 2020年4月 1日～2024 年3月31日 | 国際交流・海外展開 情報システム |
| 非常勤 | 東京大学教授 | 2022年4月 1日～2024 年3月31日 | 男女共同参画 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 高知工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>「国立高専統一のWebシラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック(成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年12月～翌年1月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、教務委員会にて確認の上、年度初めの4月1日までにインターネットにより公開している。</p> | |
| <p>授業計画書の公表方法</p> | <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=42</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに記す到達目標に対する各学生の達成度を評価基準(ルーブリック)に基づき、厳格かつ適正に単位修得の認定を行っている。教務内規の学業成績(成績評価、単位の認定)に従い、学年成績が100点満点の60点以上(卒業研究、校外実習及び海外研修は評点が「合」)でその科目の単位を修得したことを認定する。学生への定期試験の答案返却は、定期試験後の一週間以内に行うものとし、学生に模範解答と採点基準が提示・確認され、その後に成績登録がなされ、学級担任をはじめ主事、学科長、コース長、学年主任等に成績一覧表が公開されている。年度末には、コース成績会議や学年成績会議で成績評価の確認がなされた後、全教員による卒業判定会議および進級判定会議で学生の成績評価が客観的に実施されている。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学年順位ならびにクラス順位は、受講した科目（選択科目も含む）の単位重み付け平均点をもとに算出する。1・2年は、全ての科目（必修科目）が対象となり、3年生以降は、開講科目のうち必修科目と履修した選択科目が対象となる。成績順位は、1・2年生は学年順位、3年生以降はコース内順位となる。上記により、算出した平均点により、成績分布把握を行っている。</p> | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_6</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシー及び「高知工業高等専門学校進級・卒業認定に関する規則」に基づき、卒業判定会議を開催の上、校長が卒業・修了を認定している。</p> <p>(卒業の認定方針)</p> <p>教育方針に基づく教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し準学士（工学）の称号を授与する。</p> <p>(卒業要件) ソーシャルデザイン工学科 第5学年の課程の修了基準</p> <p>① 卒業研究の単位を修得していること</p> <p>② 授業科目の修得単位数の総計が167単位以上あること。(ただし、そのうち一般科目を75単位以上、専門科目を82単位以上含むこと。)</p> <p>を満たし、第5学年の課程修了を認定された者は、全課程の修了（卒業）を認定する。</p> | |
| <p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p> | <p>進級・卒業認定について https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_6 ポリシーについて https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2</p> |

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 高知工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyohoukoku.pdf |
| 監事による監査報告(書) | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|--|
| 単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和5年度) |
| 公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf |
| 中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで) |
| 公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法: https://www.kochi-ct.ac.jp/hyouka/jikoten |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|-------|
| 公表方法: |
|-------|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 ソーシャルデザイン工学科 |
| 教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_1) |
| (概要) (育成する人材像) 技術や情報が急速に高度化・多様化する現代のダイナミックな変化に即応できるよう、幅広い分野の知識・技術に触れ、自ら選択した特定領域の専門知識と他分野の知識を複合・融合できるハイブリッド型の知識・技術を備えた人材を育成する。また、倫理観と社会的責任感をもって主体的に行動でき、地域や世界が抱える課題を解決するための、判断力、実行力、チーム力などの人間力を備えた人材を育成する。 (学習・教育目標) (A) 倫理観と社会的責任感をもって行動できる (B) 幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる (C) 専門領域の知識・技術を修得し、地域社会に貢献できる (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる (E) 地域や世界が抱える課題解決のための創造力と技術力、チーム力が発揮できる 各コースが養成する人材は次のとおりとする。 (1) エネルギー・環境コースは、電気・電子システム技術の中心となる、生活を豊かにする情報通信技術とエレクトロニクス、生活を支える環境に優しい電気エネルギー技術やその環境技術を幅広く学び、高度情報化社会を支えるハードウェア、ソフトウェアからシステムまでをデザインできる実践的な技術を修得し、これからの社会をリードする電気・電子・情報通信システム産業及びエネルギー関連産業を担う人材を育成する。 (2) ロボティクスコースは、介護や福祉、災害救助をはじめ、医療・農業・食品加工分野など社会で実際に活用・実装が期待されているロボットテクノロジーについて幅広い知識を身に付けるとともに、基幹産業として今後の発展が期待されているロボット関連産業を担い、地域社会でこれらの産業を育成できる幅広い知識と技術を持ち、人々の社会生活をデザインできる人材を育成する。 (3) 情報セキュリティコースは、高度情報化社会で重要となる情報関連技術について、基礎から応用まで幅広い知識を身に付けるとともに、情報通信、ネットワーク、ハードウェアを含めたコンピュータシステム、特に情報セキュリティに関する知識と実践的な技術を修得し、人々の健全で安心・安全な暮らしと豊かな社会をデザインするとともに、その実現に貢献できる専門的・学際的な人材を育成する。 (4) まちづくり・防災コースは、土木・建築を主とした幅広い専門知識を融合し、社会基盤としての「まちづくり・住まいづくり」ができ、また地震・洪水などの自然災害から人々の暮らしを守る防災技術を持ち、防災関連産業の振興や防災関連技術の発展に寄与でき、地球全体を視野に入れた環境を総合的にデザインできる人材を育成する。 (5) 新素材・生命コースは、化学や生物学の基礎から応用までの幅広い知識をもとに、化学工業・環境・情報通信・精密機器分野などで利用されている高機能材料並びに医薬品製造・食品産業・環境分野などで生物の機能を活かす生命科学に関する知識と実践的な技術を修得し、地域社会からグローバル社会において、これからの未来を支える新素材及び生命科学関連産業の担い手になるべく、人類に有益なモノをデザインできる人材を育成する。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2) |

(概要)

教育方針に基づく教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位(準学士(工学))を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2)

(概要)

5年間の教育課程において、(B)幅広い知識・技術をもったハイブリッド型人材を育成するために、1・2年次は全学生に対して工学基礎知識(力学、電気、情報、材料)及び工学基礎技術(機械系、電気系、情報系、土木・建築系、化学・生物系の実験・実習)を修得する。特に、工学を学ぶ上で必要な基礎学力を定着させるため、理数系科目(数学・物理)においては習熟度別授業を実施し、人文・社会科学系科目を中心にアクティブラーニングも取り入れている。

3年次からは各専門コース分野における(C)専門領域の知識・技術を修得するため、それらに対応した実践的な技術を実験・実習を通じて学び、他分野の選択科目によって(B)幅広い知識・技術を融合・協働・相乗できる能力を身に付けることができ、地域協働演習・セミナーや卒業研究において(E)課題解決のための創造力と技術力、チーム力を育成する。

5年間を通して一貫したキャリア教育を行うとともに、(D)国際適応力を備え、グローバルに活躍できる能力を身につけるために英語教育の一層の充実(多読・多聴学習、英会話、ICT活用教育等)、また英語PBL活動を取り入れることによる英語運用能力を育成し、リベラルアーツ科目を充実させることにより、(A)倫理観と社会的責任感をもって行動できる能力を養い、社会人基礎力を育成できるよう、科目設定は学年ごとの学習活動の継続性にも留意している。

各コースの教育課程は「授業科目関連図」に示すとともに、各科目の授業内容・方法、学習到達度評価基準(ループリック)等は、Webシラバスにおいて公開し、学生に周知する。単位修得の認定はシラバスに記載された評価基準を適用して厳格に行う。

【エネルギー・環境コース】

エネルギー・環境コースは、電気工学、電子工学、情報通信を中心とした電気・電子システム並びに環境とエネルギーマネジメントに関係した専門基礎科目のほかに、学生が身につけたい周辺分野技術として情報セキュリティ系、機械、環境と新エネルギー系並びに化学系のいずれか若しくは複数の専門性が高められるよう、情報セキュリティ系には「情報セキュリティと法制度」や「応用情報処理」、機械系には「ロボット工学」や「熱・流体工学」、環境と新エネルギー系には「環境工学」や「環境マネジメント」や「先端エネルギー概論」、化学系には「化学工学」や「材料学概論」などの選択科目を設定する。また、電気・電子システム系に加え、将来の職業選択を考慮して製図、工作実習、組込みプログラミングを「工学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で、電気・電子システム、電力、情報通信、電気電子材料・機能素子などのテーマに関わる総合的な力を「電気電子システムセミナー」と「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

【ロボティクスコース】

ロボティクスコースは、機械工学と電気電子工学に関連する専門基礎科目のほかに、ロボットの設計および制御並びに機械工学のいずれか若しくは全ての専門性が高められるよう、ロボット設計には「材料力学」や「計測工学」など、制御には、「制御工学」や「電気回路」など、機械工学には、「流れ学」や「エネルギー工学」などの科目を設定する。また、デザイン表現力を磨く「ロボットデザイン」、ロボットを自在に制御するための「プログラミング」、機械・電気・電子情報系の実験テーマにより実技的能力や創造的活動の基礎を習得する「ロボット工学実験Ⅰ・Ⅱ」、地域が抱える諸課題を解決する能力や創造的なロボットづくりを目指した実践力を「ロボティクスセミナー」、「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

【情報セキュリティコース】

情報セキュリティコースは、高度情報化社会で重要な情報工学に関連する専門基礎科目（プログラミング、アセンブラ、コンパイラなど）のほかに、ネットワーク、ソフトウェア、ハードウェアを含めたコンピュータシステムに関する知識と技術を「コンピュータネットワーク」、「オペレーティングシステム」、「コンピュータアーキテクチャ」などの座学と「情報工学実験Ⅰ・Ⅱ」などの実験や実習を通じて習得し、特にセキュアな情報基盤をつくるための情報セキュリティに関する総合的な力を「ネットワークセキュリティ」、「ソフトウェアセキュリティ」、「ハードウェアセキュリティ」、「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

【まちづくり・防災コース】

まちづくり・防災コースは、土木と建築の専門知識を身に付けるための基盤となる土木と建築の専門基礎科目（構造力学、地盤工学、建設材料学、測量学、水理学、建築史、建築計画）のほかに、土木と建築のいずれか若しくは両方の専門性が高められるよう、前者には「交通インフラ工学」「河川工学」「水環境工学」など、後者には「建築一般構造」「建築環境工学」「建築設備」などの選択科目を設定する。また、社会基盤としてのまちづくりや住まいづくり、さらに環境との共生を図りつつ、自然災害に備える防災などに関する総合的な力を「都市計画」「防災工学」「まちづくり・防災創造演習」「土木・建築実験」「設計製図」「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造能力を涵養する。

【新素材・生命コース】

新素材・生命コースは、材料科学と生命科学の専門知識を身に付けるための基盤となる化学と生物の専門基礎科目（分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生化学）のほかに、材料科学と生命科学のいずれか若しくは両方の専門性が高められるよう、前者には「無機材料学」「高分子材料化学」「機能性材料」など、後者には「分子生物学」「遺伝子工学」「酵素工学」などの科目を設定する。また、高機能材料の設計・開発あるいは生物の機能を活かしたバイオテクノロジーに関連した総合的な技術力を実験系科目及び「卒業研究」などで養い、知識・技術の両面から新しい創造力を涵養する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2）

（概要）

高知高専ソーシャルデザイン工学科では、工学を学ぶための基礎学力を備え、若いときから幅広い知識・技術の修得に取り組み、様々な社会の課題を解決できる人になることを目標とし、社会に貢献したいという高い志を持った以下のような方々の入学を心から歓迎します。

- ・モノづくりに情熱や好奇心を持っている人
- ・人々の暮らしに役立つための技術力を身に付けたいと夢を抱いている人
- ・協調性を持ちながら周りの人たちの先に立って行動ができる人
- ・地域社会の発展に貢献したいという志を持っている人
- ・世界を舞台に活躍したいというチャレンジ精神のある人

新入生に対しては、中学校で修得した知識・技能や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

編入学生に対しては、本校で工学を学ぶために必要な高等学校等で修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などを多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。

学部等名 ソーシャルデザイン工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_1）

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。</p> <p>本専攻の教育の目的は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科で学修した工学（融合複合）分野の知識・技術をさらに深めながら、地域・産業あるいは世界が抱える諸課題に対して、最先端の情報技術を連携させた技術システム・社会システムを創造・デザインして解決に貢献できる人材を養成する。 ・ 情報・環境・公共の安全等に対応できる高い倫理観をもち、国際的な視点に立って判断のできる人材を養成する。 ・ 複数の分野の知識の新たな組合せを活用することで、それまでに個別の分野の知識では解決が困難であった最先端の課題に取り組むことができ、地域や産業の即戦力として幅広く活躍できる人材を養成する。 |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2）</p> <p>(概要)</p> <p>本校専攻科の養成する人材像（ディプロマポリシー）は以下のとおりである。</p> <p>学則で定める修了要件を満たすとともに、以下に示すような知識及び能力を備えた者に対して修了を認定する。</p> <p>（養成する人材像）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本科で学修した工学（融合複合）分野の知識・技術をさらに深めながら、地域・産業あるいは世界が抱える諸課題に対して、最先端の情報技術を連携させた技術システム・社会システムを創造・デザインして解決に貢献できる人材 ② 情報・環境・公共の安全等に対応できる高い倫理観をもち、国際的な視点に立って判断のできる人材 ③ 複数の分野の知識の新たな組合せを活用することで、それまでに個別の分野の知識では解決が困難であった最先端の課題に取り組むことができ、地域や産業の即戦力として幅広く活躍できる人材 <p>この養成する人材像（ディプロマポリシー）を実現するため、具体的な学習・教育目標として次の(A)～(E)を掲げて教育を実施する。</p> <p>（学習・教育目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> (A) 高い倫理観をもち、グローバルな視点に立って行動できる。 (B) 数学・自然科学、情報工学及び専門基礎に関する知識・技術を工学（融合複合）分野に応用することができる。 (C) 高度な専門知識をもち、その技術と情報技術を組み合わせて構築させる複合システムデザインの基礎を身につけることができる。 (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる。 (E) 地域・産業あるいは世界が抱える課題解決のための創造力、複合システムデザイン力及びチーム力を発揮できる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2）</p> <p>(概要)</p> <p>学習・教育目標に掲げる能力を育成するために、教育課程は次の基本方針（カリキュラム・ポリシー）をもとに編成している。</p> <p>教育課程の実施方針は、本科の教育課程との接続を「授業科目関連図」に示すとともに、シラバスにおいて教育内容・方法、学修成果の評価等について明記する。なお、評価はシラバスに示す成績評価の基準・方法に従って行い、60点以上を合格とする。</p> <p>(A) 高い倫理観をもち、グローバルな視点に立って行動できる能力を育成するために、一般科目（技術者倫理、社会学特論）、専門共通科目（環境工学特論、プロジェクトマネジメント概論、地域計画学）を設ける。</p> |

- (B) 工学（融合複合）分野に応用できる能力を育成するために、専門基礎科目（数理学、基礎科学、情報工学に関する科目）、専門共通科目（情報システム論）を設ける。
- (C) 高度な専門知識は、異なる工学分野の教員が協働で授業を行う連携教育（機械工学と電気電子工学または土木工学との連携等）で深めていく。また、システムズエンジニアリングの基礎力とデザイン思考力を育成するために、実験・演習科目（システム工学実験、システムデザイン演習など）を設ける。
- (D) 国際適応力を備え、グローバルに活躍できる能力を育成するために、本科からの英語及び日本語教育に加え、専攻科では「英語コミュニケーション」、「英語購読」を必修科目として設ける。
- (E) 地域・産業あるいは世界が抱える課題を解決できる能力を育成するために、「インターンシップ」、「長期インターンシップ」、「海外インターンシップ」、専門分野の異なる学生がチームを組む「プロジェクトデザイン工学演習」と、異なる工学分野の教員を含む2名以上の教員から指導を受ける「特別研究」を設ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/koukai_2）

（概要）

本校専攻科では、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門学術を教授する。また、教養教育及び実践的教育を通じて、幅広い教養と優れた人格を備えた広く産業の発展に寄与することのできる自立した技術者の養成を行う。

本専攻科入学者として、以下に示す人材を求めている。

1. 専門の基礎知識とコミュニケーション能力を有し、さらに高度な専門知識を学びたい人
2. 課題に対して主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人
3. 技術を生かして地域や社会に貢献したい人
4. 他者と協働しながら物事に取り組める人

（入学者選抜の実施方法）

〔推薦による選抜〕

入学者の選抜は、調査書、推薦書、小論文及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定する。

〔学力検査による選抜〕

入学者の選抜は、学力試験、調査書、面接の結果を総合して判定する。

学力試験は、数学及び専門科目について筆記試験を行い、英語については出願時に提出された TOEIC スコア等により評価する。

〔社会人特別選抜〕

入学者の選抜は、調査書、推薦書又は業績調書、小論文及び面接の結果を総合して判定する

（入学者選抜に係る基本方針）

主たる専門分野は取得を希望する学位区分のことであり、出願時に提出させる。

入学者選抜毎に全受験者を1つの選考資料で序列し、上位から合格者を決定することを原則とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_2

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|---|-----|----|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 6人 | — | | | | | 6人 |
| ソーシャルデザイン工 学科 | — | 18人 | 27人 | 2人 | 5人 | 0人 | 52人 |
| | — | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 35人 | | | | | 35人 |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=07&affiliationId=6688000000 | | | | | |
| c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| ソーシャルデ ザイン工学科 | 160人 | 164人 | 102.5% | 800人 | 821人 | 102.6% | 若干名 | 1人 |
| ソーシャルデ ザイン工学専 攻 | 16人 | 24人 | 150% | 32人 | 49人 | 153.1% | 0人 | 0人 |
| 合計 | 176人 | 188人 | 106.8% | 832人 | 870人 | 104.6% | 若干名 | 1人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数 | | | | |
|-----------------------|----------------|-----------------|-------------------|---------------|
| 学部等名 | 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| ソーシャルデ ザイン工学科 | 123人 (100%) | 37人 (30.1%) | 79人 (64.2%) | 7人 (5.7%) |
| ソーシャルデ ザイン工学専 攻 | 14人 (100%) | 2人 (14.3%) | 12人 (85.7%) | 0人 (%) |
| 合計 | 137人 (100%) | 39人 (28.5%) | 91人 (66.4%) | 7人 (5.1%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>「国立高専統一の Web シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック（成績評価基準表）・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。</p> <p>例年、前年 1 2 月～翌年 1 月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、教務委員会にて確認の上、年度初めの 4 月 1 日までにインターネットにより公開している。</p> |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>シラバスに記す到達目標に対する各学生の達成度を評価基準（ルーブリック）に基づき、厳格かつ適正に単位修得の認定を行っている。教務内規の学業成績（成績評価、単位の認定）に従い、学年成績が 100 点満点の 60 点以上（卒業研究、校外実習及び海外研修は評点が「合」）でその科目の単位を修得したことを認定する。</p> <p>(卒業要件) ソーシャルデザイン工学科 第 5 学年の課程の修了基準</p> <p>① 卒業研究の単位を修得していること</p> <p>② 授業科目の修得単位数の総計が 167 単位以上あること。（ただし、そのうち一般科目を 75 単位以上、専門科目を 82 単位以上含むこと。）</p> <p>を満たし、第 5 学年の課程修了を認定された者は、全課程の修了（卒業）を認定する。</p> <p>(修了要件) 専攻科 ソーシャルデザイン工学専攻：専攻科に 2 年以上在学し、必修科目 4 8 単位（一般科目 8 単位、専門基礎科目 1 0 単位、専門共通科目 3 0 単位）、学位に応じて専攻科が定める選択科目のうちから 1 4 単位以上を含む 62 単位以上を修得していること。</p> |
|--|

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要な単位数 | G P A 制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|---------------------|---------------|-----------|-------------------------|-----------------------|
| | ソーシャルデザイン工学科 | 167 単位 | 有・無 | 単位 |
| | ソーシャルデザイン工学専攻 | 62 単位 | 有・無 | 単位 |
| G P A の活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： | | |

| | |
|----------------------------|-------|
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | 公表方法： |
|----------------------------|-------|

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho/kj_7

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考(任意記載事項) |
|-----|---------------|-------------|---------|----------|------------|
| | ソーシャルデザイン工学科 | 234,600円 | 84,600円 | 139,550円 | |
| | ソーシャルデザイン工学専攻 | 234,600円 | 84,600円 | 83,550円 | |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生に対する総合的な支援を行うことを目的に、学生の進路サポートを行う「キャリア支援室」、学生の勉学支援を行う「学習支援室」、こころのケアを行う「学生相談室」を統括する組織として平成27年度に「総合学生支援センター」を設置。お互いに情報を共有し、困っている学生をスムーズに支援出来る体制としている。 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生のキャリア支援に対する立案、支援の推進並びに支援体制の充実を体系的に実施することを目的として「キャリア支援室」を設置。本校の教育方針に基づき、就職支援並びに進学支援など多面的に取り組んでいる。 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生が様々な疑問・不安・悩みを乗り越えて自分を高め人間的な成長ができるように支援することを目的として「学生相談室」を設置。専門のカウンセラー、精神科医、ソーシャルワーカーを配置すると共に、「学生による学生のための学生相談」として専攻科学生によるピアサポーター制度の取り組みも行っている。 |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kochi-ct.ac.jp/college/kyoiku_jyoho_2

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------|------------------|
| 学校コード | G139110110566 |
| 学校名 | 高知工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 53人 | 49人 | 55人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 29人 | 26人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 12人 | - | |
| | 第Ⅲ区分 | 12人 | - | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 41人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | | 0人 | - |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下) | | - | 0人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | | - | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | | 0人 | 0人 |
| 計 | | - | - |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---------|--|---|--------|
| 年間 | | 前半期 | 0人 後半期 |
| | | | 0人 |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下) | | 0人 | 0人 |
| G P A等が下位4分の1 | | 0人 | - |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | | 0人 | 0人 |
| 計 | | 0人 | - |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。